



# うきうき コドモックル

季刊 第26号

2014年 発行

<☆\*:. .:\*° <コドモックルの12月はイベントが満載でした！>\*:. .:\*☆>

平成25年12月1日（日）

A Iプロジェクトにて、日本ハムファイターズ稲葉選手が、昨年引き続き来訪してくださいました。病棟にてみんなからの質問に答えてくれたり、一緒にストラックアウトを楽しんでくれました。

子ども達は、憧れの稲葉選手を前にドキドキワクワクしながら、あっという間の時を過ごしました。本当にありがとうございました。



平成25年12月17日（火）

コンサドーレ札幌のサンタ隊が来訪されました。ドーレくんやコンサドルズとともに期待のFW神田選手も来てくれました。獣電戦隊キョウリュウジャーの歌にのせた息のあった踊りには、子ども達も一緒に参加し、大いに盛り上がりました。本当にありがとうございました。



平成25年12月19日（木） クリスマス会が行われました。病棟では、看護スタッフの手作りペーパーアート「三匹の子ぶた～クリスマスバージョン」が披露されました。手稲養護学校体育館では、なかま会がストーリーを考え台本を書き上げた劇「はたらくサンタさま！」が舞台で行われました。世界中の子ども達のために、忙しくクリスマスプレゼントを準備しているサンタの物語を、子ども達が演じ、とても好評でした！。また余興ではリハビリ課スタッフによる紅白歌合戦も行われ、「となりのトトロ」「AKB」「嵐」などの人気者達が次々出演し歌い踊りました。最後にはサンタさん達が登場し、皆にクリスマスプレゼントが配られました。



退職者から一言 理学療法士 川浪龍司

昭和57年に旧療育センターで働き始めて33年。振り返れば出会いと別れのたっぷりつまった日々だった。自分に、たくさんの思い出を残して、旅立っていった子供達。今年に入って又一人、大切な子供が旅立っていった。「もうちょっと居てくれよ～」心の中で叫ぶ。自分は今年三月で退職。旅立った子供達とやりたかったこと、できなかったことがいっぱいある。それを、この世にとどまってくれている子供達、がんばってくれている子供達とやっていきたい。老後の楽しみとして。



## 保育士の仕事

### A・B病棟

3階A・B病棟の中間にプレイルームがあり、私たちはそこにいます。様々な玩具や絵本を用意し、親子で安全、安心に遊んでいただけるよう管理、工夫することも私たち保育士の仕事です。付き添いのないお子様や一時的お預かりと一緒に遊ぶことが主ですが、環境整備のためおもちゃ消毒や壁面装飾、季節行事に合わせた病棟内装飾もしています。



### 医療病棟

主に手術の前後のお子様が入院している病棟です。そのため、比較的自由に動けるお子様と、ギブス等で動きに制限のあるお子様が一緒に過ごしています。動きのあるお子様には、体を動かす遊びを中心に行い、遊びの中で体の動かし方を覚えていきつつ、リハビリや生活への更なる意欲を高めていけるように働きかけています。動きに制限のあるお子様には、個別や少人数での遊びを行い、心身共にリフレッシュできるよう心がけています。年齢の異なるお子様同士が、声をかけ合い助け合い互いに思いやる心を育てられるよう努めています。



### 親子病棟

この病棟では親子がグループに分かれたり、大きな集団と一緒に遊びます。グループ保育では感覚遊びやからだ遊びを中心に行っています。集団遊びでは毎回プール遊びを取り入れています。また、親子遊び、保育学習、お楽しみ会等では親子や親御さん同士が触れ合いながら交流する機会を作っています。お子様に合った遊びを実施し、発達を促し情緒の安定を図ると共に、親御さんに遊びの楽しさや大切さを再認識していただき、ご家庭でお子様との関わりに生かしていただければと考えています。



### 生活支援病棟

ここでの保育士の仕事は、入院しているお子様の日常生活の介助を行いながら、精神的な面の援助も大切にしています。下校後や休日などは、余暇を楽しく過ごせるよう遊びの提供や学習できる時間も設けています。その他、お子様たちの交流が深まるよう集団遊び(小学部)、なかま会(中学部)、レッツトライ(高等部)の活動を定期的に行なっています。また、幼稚部の年齢に満たないお子様の三歳未満児保育や、短期入院、一般入院で学校に行かないお子様の対応もしています。



### 外来

外来担当の保育士は、リハビリテーション科小児科(略称:リハ小児科)あるいは児童精神科にいます。リハ小児科ではDrと保護者の方がお話している間、受診のお子様やそのごきょうだいが楽しく過ごせるように遊びを提供しています。



児童精神科ではDrと心理士・OT・STと一緒にチーム診療やグループセラピーを行っています。グループセラピーでは楽しい活動を経験し、お子様が家庭や学校、地域で生き生き過ごせるよう援助します。